

よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

I 今年度の研究について

現代の社会は、少子高齢化やグローバル化の進展、情報化やAIの急速な発達、さらには環境問題や自然災害への対応など、大きな変化と課題を抱えています。そのような社会を生きる子供たちには、単に知識を覚えるだけではなく、例えば日常生活の中で「なぜだろう」と疑問をもち、自分なりに課題を見だし、友達や家族と力を合わせてよりよい生活をつくり出す力が求められています。

「令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査（家庭）」では、指導上の改善点として「実践的・体験的な活動を通して実感を伴った理解を深めること」や「既習の知識や生活経験を基に課題を設定し、問題解決的な学習を充実させること」が示されています。これらの指摘は、まさに本研究が大切にしてきた視点と重なっており、家庭科教育における授業改善の方向性を改めて確かめる機会となりました。

昨年度の成果と課題、さらに上記の調査結果を踏まえて、今年度も研究主題「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」のもと、研究を一層深めてまいります。授業研究や実技研修を通して具体的な改善の手立てを探り、日々の授業に生かしていくとともに、東京都単独開催最後の令和9年度の全国大会東京大会を見据えて研究の視点を再整理し、より発展させていく計画です。家庭科教育は、子供たちにとって「生きる力」の基礎を育む大切な教科です。身近な生活から問題を見つけ、課題を立て、解決の方法を考え、計画・実践・評価・改善へとつなげていく一連の学習過程を大切にしながら授業研究を進めていきます。

II 研究構想

以下のように構想し、授業研究に取り組んだ。

研究のねらい

生活をよりよくするために、既習の知識及び技能や生活経験を基に日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導の在り方を研究する。

目指す児童像

- 日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている子
- 日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、工夫し解決する子
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子

見付け、身に付け、未来につなごう

研究の視点

児童の系統的な学びを支える指導計画 (カリキュラム・マネジメント)

- 育成を目指す資質・能力の明確化
- 各題材における基礎的・基本的な知識及び技能の明確化と題材配列の工夫
- 他教科等との関連を図った指導計画
- 小中5学年間を見通した指導計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 学習過程における学習指導の工夫
- 言語活動の充実
- ICTを活用した授業の工夫
- 実践的・体験的な活動の充実
- 個に応じた指導の充実

家庭や地域との連携・協働

- 家庭・地域との関わりを深めるための学習活動の充実
- 家族の一員として継続して実践する児童を育てる家庭連携の工夫
- 地域の人材や教材の開発

学びの成果を次の学習へとつなげる評価

- 資質・能力に沿った評価計画の作成
- 成長を実感できる評価の実施
- 児童の思考の過程を把握し、評価する方法の開発



Ⅲ 研究の内容

*公開授業

○令和7年10月8日(水) 板橋区

第6学年「できることを増やしてクッキング」

～B(1)「食事の役割」ア

(2)「調理の基礎」のア(ア、イ、ウ、エ)、イ

(3)「栄養を考えた食事」のア(イ)

授業者 板橋区立北野小学校 山中 麻衣 主任教諭

講師 元帝京大学大学院教職員研究科 教授 小関 禮子先生

○令和7年11月5日(水) 杉並区

第5学年「食べて元気に」

～B(1)「食事の役割」ア

(2)「調理の基礎」のア(ア、イ、ウ、オ)、イ

(3)「栄養を考えた食事」のア(ア、イ)

授業者 杉並区立浜田山小学校 舟見 明美 教諭

講師 東京家政大学 家政学部 准教授 岩崎 香織 先生

○令和7年11月12日(水) 稲城市

第6学年「ようこそ！ 若葉台キッチンへ」

～B(2)「調理の基礎」のア(ア)、イ

(3)「栄養を考えた食事」のア(イ、ウ)、イ

授業者 稲城市立若葉台小学校 平岡 愛菜 教諭

講師 元全国小学校家庭科教育研究会 会長 藤原 孝子



Ⅳ 研究の成果と課題

1 本研究の成果

○題材を通して重視する視点を適切に定め、目指す資質・能力を明確にして指導したことで、児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、学びの質を高めることができた。

○目的が明確な学習内容やICT教材を工夫することで、実践的・体験的な活動が充実し、児童は活発に学び合い、思考を広げ深める姿が見られた。

○3地区の授業研究会を通して、各地区における家庭科の研究を深めることができ、その他の地区へ家庭科の指導について啓発することができた。

2 本研究の課題

●児童の思考を支える知識を明確にした後に、「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた活動に取り組み、実生活に生かす意義を実感させるようにする。

●家庭科を指導する多くの教員に授業研究会や研究発表会に参加してもらい、実践内容を還元できるようにしたい。

●教育課程企画特別部会論点整理に示された次期学習指導要領の基本的な考え方を盛り込んで研究構想を見直していく。

<連絡先>

団体名		東京都公立小学校家庭科研究会
代表者	所属	文京区立青柳小学校
	職 氏名	校長 村上 律子
	連絡先	03-3947-2471
事務局	所属	東久留米市立南町小学校
	職 氏名	校長 臼井 美佳
	連絡先	042-461-2662